

# 一般社団法人日本社会福祉学会第 63 回 秋季大会 報告 (第 63 回秋季大会を終えて)

日本社会福祉学会第 63 回秋季大会 実行委員長 鬼崎信好 (久留米大学)

広報委員会(委員長 湯澤直美理事)から学会ニュース用の「日本社会福祉学会第 63 回秋季大会」の報告原稿をまとめるようにとのご依頼がありました。

何をお伝えすればよいかを悩みましたが、「お礼」と「反省」をお伝えするべきかと思ひまして、少しだけ記したいと思ひます。

## 1. 感謝

先ずは会員の皆様方に、去る 9 月 19 日～20 日の 2 日間の日程で「日本社会福祉学会第 63 回秋季大会」を無事終えることができましたことをご報告いたしますとともに、お礼を申し上げます。特に残暑厳しい中にも関わらず、北は北海道から南は沖縄まで、また韓国及び中国からもお越しいただきましたことを、衷心より感謝申し上げます。

さらに様々な観点からアドバイスなどを下さった大会運営委員会(委員長 山縣文治理事)の皆様方にもお礼を申し上げます。このことによりまして、受け入れ態勢を含めて必ずしも十分ではなかったかもしれませんが、一応の責任を果たすことができたのではないかと、思っております。(少し自らに甘いかもしれませんが、大会企画校シンポジウム、若手研究者のためのシンポジウム、口頭発表、ポスター発表も多くの方々に参加して戴けたものと考えます)。

## 2. 振り返り

学生には講義の終わりに「振り返りシート」を配布し、学んだ点等を書かせていますので、自らの取組みを振り返ってみたいと思ひます。(私たちの乏しい経験を記すことによって、今後、大会開催を担当される会員校の皆様方に参考になればと思ひまして、思いつくままに記していきたいと存じます)。

### ①開催時期について

私どもの場合、本務校の事情等があり、3 年先の学年暦を想定して消去法で平成 27 年 9 月 19 日～20 日に決めざるを得ませんでした。その時はこの期間はシルバーウィークのスタート日にかぶるとは思ひもしませんでした。いよいよ開催前 1 年になって、そのことが分かり、切実なことになったのです。(特に、文部科学省の省令<設置基準>を踏まえ、半期の講義は祭日も使いながら 15 回開講することを徹底するようになっていきますので、行事をするときに窮屈になっています。また、入試時期とも重なり、学会の開催時期がかなり絞られることになると思ひます)。

### ②学生アルバイト・補助者の確保について

昔は大学進学率が右肩上がりの時代でもありましたが、学会規模も小さかったこともあり、学生の協力もお願いしやすかったのですが、近年は時期にもよりますが、相談援助実習に行っている場合があり、学生アルバイト・補助者の確保が困難になりやすくなっています。しかも、正当な労働として業務に当たって戴くようお願いした方が適切と思ひます。そのために、かなり経費を見ておかないといけないと思ひます。

### ③大会テーマと企画校シンポジウムなどのテーマの設定

これが一番重要になることですが、開催校での検討→本部大会運営委員会での協議→理事会の承認とのフィードバックを重ねながら決定する必要がある、これが一番重要になってきます。大会統一テーマに関しては、第62回大会までのテーマを参酌し、多面的な検討をしました。また、九州の福岡という地域の特性を考えて提案したかったのですが、力量不足のためでしょうか、必ずしも十分ではありませんでした。

### ④発表資料の保存

研究倫理上の責任を全うするために、発表内容の点検と選考は重要になります。その体制の確立が重要になると思います。また、報告内容も一定期間保存する必要があります。ひとつの方法として、大会企画校シンポジウムの発題内容を印刷して配布・保存できるようにしました。口頭発表のレジュメに関しては3年間保存するように理事会で決定しておりますので、保存用のレジュメを確保しています。ポスター発表用に関しては、写真を撮っていますが、次回からは予め連絡をして縮小コピーの提出をお願いする方が良いかと思えます。

今回は山縣委員長自らが『若手研究者のためのシンポジウム』においてシンポジストの一人として「大会における口頭発表・ポスター発表の作法」について報告されたことは、今後につながると考えます。

まとまりのない振り返りとなりましたが、ご参考になればと存じます。